西南戦争の痕跡

Bullet holes made at the Battle of Shiroyama (the final battle of the Satsuma Rebellion)
세이난 전쟁의 흔적
西南战争的遗迹
西南戰爭的遺跡

御楼門部周辺の石垣には、無数のくぼみが見られます。このくぼみを観察すると、銃弾や砲弾の破片が食い込んでいるものがあります。周辺の発掘調査で見つかった銃弾や砲弾などから、これらの多くは、明治 10（1877）年の西南戦争の際の痕跡であることが分かりました。

熊本・宮崎での戦いに敗れた西郷軍は、明治 10 年 9 月、故郷鹿児島の地に戻り、城山を中心に布陣し最後の決戦に挑みます。これに対し政府軍は約 5 万人の兵で包囲し、西郷軍に無数の銃・砲弾を浴びせました。

御楼門部周辺の石垣に残るこれらの弾痕からは、複数箇所から銃撃や砲撃が行われたことをうかがい知ることができ、この攻撃の凄まじさを今に伝えています。

また、鹿児島（鶴丸）城の御厩跡に建てられた私学校周辺（現在の鹿児島医療センター）の石垣や石塀（ここから北に約 100m：右下案内図参照）にも銃弾痕が残されており、これらは、日本最後の内戦である西南戦争の歴史を伝える貴重な痕跡です。

▲ 石垣に残る銃砲弾痕と銃弾の破片

▲ 私学校周辺　案内図